

コード No. 28147

**Anti-
Human Daple Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

- はじめに** : 古典的 (β -catenin 依存的) および非古典的 (β -catenin 非依存的) Wnt シグナル伝達経路は胚発生、組織の細胞構築の形成 維持、細胞の増殖などを制御するシグナル伝達経路であり、癌を含む多くの病態に関与しています。中でも、非古典的 Wnt シグナル伝達経路は組織の極性決定や細胞の運動を制御することが知られており、本経路ではスキャフォールド分子 Dishevelled (Dvl) と、その下流で活性化する低分子量 GTPase の Rho ファミリー分子群 (Rac, Rho) が不可欠な役割を果たすことが明らかにされています。Daple は大阪大学の菊池章教授のグループによって同定された分子で、Girdin や Gipie と配列上の相同を示します。Daple は Dvl と結合し、その相互作用を介して Wnt5a 刺激依存的な Rac の活性化を制御することが示されました。培養細胞を用いた実験で、Daple はアクチン骨格の再構成や細胞運動に必要であること、また、Daple ノックアウトマウスの解析により、本分子機構が皮膚の創傷治癒に重要な役割を果たすことも明らかとなりました(参考文献 1)。
- 免疫抗原** : Daple の部分合成ペプチド (EPGGDPQTVWYEYG)
- 精製方法** : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態** : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法** : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性** : 2~8 °C 保存 5 年間安定
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法** : 免疫組織染色 5.5µg/mL にて使用可能
: 免疫細胞染色 11µg/mL にて使用可能
: ウェスタン・ブロッティング 1~5µg/mL にて使用可能
- 特異性** : ヒトの Daple に反応
- 参考文献** : 1 . Ishida-Takagishi M, Enomoto A, Asai N, Ushida K, Watanabe T, Hashimoto T, Kato T, Weng L, Matsumoto S, Asai M, Murakumo Y, Kaibuchi K, Kikuchi A, Takahashi M. The Dishevelled-associating protein Daple controls the non-canonical Wnt/Rac pathway and cell motility. Nat Commun. 2012 May 29;3:859.